最近邦文天文書一覽

倉敷天文臺　水　野　千　里

大正十四年に「最近五年間の邦文天文書一覽」を寄稿したことがある．その時には大正九年から大正十四年七月頃迄に發刊されたものを批評したが，其の後一ヶ年半間に出版されたものに就いて短評を試みやう，

(1)　理學博士新城新藏著
迷　信　1冊　¥2.50　興學會出版部

(2)　同　人　著
天文學概觀　1冊　¥1.50　興學會出版部

(3)　理學博士山本一清著
天文と人生　1冊　1.50　警醒社書店

(4)　同　人　著
遊星さりぐり　1冊　¥1.80　同　上

(5)　同　人　著
星空の觀察　1冊　¥1.80　同　上

(6)　同　人　著
星につながる人々　1冊 ¥1.80 同　上

(7)　同　人　著
北極星その外　1冊　¥1.80　同　上

(8)　同　人　著
宇宙開拓史講話　1冊　¥1.80　同　上

(9)　同人著天體と宇宙（萬有科學大系第一卷の中にある）

(10)　同　人　著
標準天文讀本　1冊　みつぐし書店

(11)　理學士關口鯉吉著
太　陽　1冊　¥4.30　岩波書店

(12)　同　人　著
天　體　1冊　¥2.00　同　上

(13)　同　人　著
太陽黑點　1冊　¥2.30　科學畫報社

(14)　同　人　著
天界片信　1冊　¥2.30　興學會出版部

(15)　古川龍城著
天文學的人生觀　1冊　¥1.20　越山堂

(16)　山崎正光著
素人に出來る天體望遠鏡の作り方
1冊　¥2.00　科學畫報社

(17)　中村　要著
趣味の天體觀測　1冊 ¥.1.30　岩波書店

(18)　井上四郎著
天文小話　1冊 ¥2.00 科學知識普及會

(19)　東京天文臺編纂
理科年表大正十五年　1冊　¥1.50
丸善株式會社

(20)　理學士青山信藏著
地球の起原と歷史　1冊 ¥3.50 大鐙閣

(21)　同　人　著
天地の構造　1冊　¥2.80　同　上

(22)　小野　清著
天文要覽　1冊　¥12.00　六合館

(23)　堀尾實美著
科學世界天體美觀　1冊 ¥3.00
中文館書店

(2)　現代常識大系第一編
宇宙の見方　1冊　¥1.50 日本評論社

(25)　同　上　第二編
地球の見方　1冊　¥.150　同　上

(26)　野尻抱影著
星座巡禮　1冊　¥1.50　研究社

(27)　理學士石井重美著
人類及地球の運命其他　1冊　¥1.50
アルス

(28)　矢隅俊緒著
これは面白い天文地文の話
1冊　¥0.60　白光社出版部

(29)　理學士原田三夫著
子供の科學叢書　星の卷
1冊　0.75　子供の科學社

(30)　野村胡堂作　太田雅光畫
太郎の旅月世界のたんけん
2冊　¥2.40　同　上

(1)　迷信の緒言の最初に「所謂迷信なるものが意想外に廣く行はれて居り．これがためにあらゆる方面に於て少からず能率の減損を見て居るのは實に慨歎の至りに堪えない．私（新城博士）は數年來迷信征伐を思ひ立ち，少し宛調査を續け．其の都度雜誌や新聞に掲載したので，此の度之れ等を一さ纏めにし整理したものが此等である．云々」と記されてある通

り迷信に關する世人の盲を開き．特に丙午生れの女の爲めに，大に其の不心得を誡め世の知識階級の人にすらあるところの迷信打破に努められ．附錄に曆の變遷と干支五行說と顓頊曆について記されてある．

一般の家庭に一本を備える必要がある

(2) 天文學概觀．本書は去る大正十三年八月靜岡縣島田夏期講座に於ける新城博士の講演を纒められたもの，第一章天文の發達，第二章地球，第三章太陽と恒星，第四章宇宙進化論に大別してあつて，殊に天文の發達は博士獨特の舞臺，各章に博士の得意の流星圖說が記されてあつて，しかも通俗に述べられてある，同好會員の机上には是非一本を備へ付けなくてはならない．

(3)—(7) 山本博士天文講座叢書第一編から第五編迄，(3).(4).(5)，は大震災前に發行されたもので，品切となつて居たものの重版，星につながる人々は博士滯米二ヶ年の思ひ出を結びついてゐるものであると序の一節に記されてある．バーナード先生のこと．コペルニクスを偲ぶ，大哲カントを偲ぶ，噫カプタイン逝く．……噫佐々木哲夫君等，天文の異つた方面が書かれてあるので，修養書として誰人が讀んでも何か得るところがある．

「北極星そのほか」は「天界」に掲載された，北極星の話，星の光度，太陽系の現勢．天文臺とは何ぞや，新しきノアの箱舟，バーデ彗星について，小遊星エトラの再發見，國定教科書中の「太陽」についての八編が收められてある．

(8) 宇宙開拓史講話は「宇宙建築と其の居住者」を改題された上，ジーンスの新星雲說の一篇を附加されたものであつて，本邦に於ける唯一の天文學史である，

(9) 天體と宇宙 本書は山本博士の力作であつて，校正に丈けでも半ヶ年を費されたもの，現今邦文天文書中の白眉と稱するに決して躊躇しない名作である，萬有科學大系の第一篇中に收められて居るが，兩三年中には單行本として發行される豫定である．幸ひ余は別刷一册を博士から寄贈されたので，毎々繙讀して居る．內容の大要は第一章太陽系．第二章恒星，第三章宇宙の構造，第四章天文臺とその設備，四六倍版三段組で338頁挿圖三百六十六，紙質は良く印刷は鮮明である．文章は頗る平易であるが事柄は高尙，應接室に備へ付け一般の人々に示すに最も妙であらう．第四章の天文臺とその設備の一篇は邦文書中で詳細を極めたものである．日本で最初の火星觀測圖（中村要氏の觀測されたもの）の如きは，大に氣焰を揚げ珍重なものである．各地の圖書館，學校等には萬有科學大系が備付けてあるから熟讀され，天文學の最新知識を得らるゝ樣に御奬め申す．

(10) 標準天文讀本は山本博士の自費出版，原稿が出來るに從つて印刷に附され，小生の手許にあるのは第272頁迄である．本書は先生快心の著書300頁位で結了の筈で圖は卷尾に纒めらるゝ筈，天文學上のことは是丈けは心得置くべしといふ考から筆を執られたもの，第一章天球第二章天體運動の理論，第三章球面天文學，第四章天體の物理學迄進んで居て名の如く標準とすべき天文書である．

(11) 太陽．關口理學士の「太陽」は神田理學士の「彗星」と共に誇るべき邦文天文書の双璧である．菊判544頁の大册索引も附されてある，

(12) 天體．天體の物理を說いたもの第一章から第四章迄は太陽系に屬するもの，第五章恒星及星雲に及んで居て，他に類の少い書である．

(13) 太陽黑點，太陽の黑點觀測者に好指針となる良書．太陽の黑點は一般人士の話題に上る今日，本書を繙かずに黑點を口にすべからずだ．

(14) 天界片信 序を以つて評に代ふ本編は過去十年程の間に天文氣象の如で著者（關口理學士）の話したり，書いたりした通俗的の短編を掻き集めて一册としたものです．言はゞ棚ざらしに過ぎぬものですが，古い埃は出來るだけ拂い，多少は新たな裝ひもしまして，日に面貌をかへつゝある學界の現勢に讀者を結びつけることを努めたつもりで居ります，いやな古臭の中にも一掬の新味を見出して

一時でも時代の空氣の中に逍遙さるゝ讀者がありましたら望外の幸であります，

（13）天文學的人生觀．第一章須らく既有の觀念を捨てるべし，第二章大宇宙の構造と發展．第三章地球の過去と將來第四章人類の覺悟，附錄，一，月世界の話，二，太陽の黑點，三，流星と彗星．天文學上に立脚したる著者の人生觀である，

（16）天體望遠鏡の作り方．天文用反射鏡の部と天文用屈折望遠鏡とに分ち，附錄に天文講話を說いてあるが，天文學獨學法の一篇は獨學者の參考となる，

（17）趣味の天體觀測は中村要氏の著同氏は反射望遠鏡の製作者としては本邦の第一人者，外國の一流者に伍して決してひけをとらぬ新進氣鋭の篤學者である．第一章望遠鏡，第二章觀測，第三章變光星の觀測，附錄の四つに大別し，自己の經驗を第一として書かれたもの，天界の神祕を望遠鏡で覗かんとするものは見逃してはならない書である．

（18）天文小話．本書は井上四郎氏が嘗て「科學知識」に投稿されたものを集めて單行本とされたもの，天文學と寫眞術天文學用觀測器械の二篇は特に參考となる，

（19）理科年表．大正十四年に第一册が出版され，第二册が大正十五年用として世に公にされた，既に世間に定評ある好著である．

（20）地球の起原と歷史．地球の起原に關する諸大家の說を述べ，地質時代に及び太陽系創成の新說，ウエゲネルの大陸移動說に筆を結んである．

（21）天地の構造．本書は前者と同樣青山理學士の著，天體物理學の方面から天地の構造を述べてある，

（22）天文要覽，本書は小野老人（本年八十二歲）の著歐米天文の盛な今日東洋の天文を書いたものは殆んどないところにこの書が出版されたのは實に喜ばしい．

目次の大要は下記の通りである．東洋に於ける恒星及び星象，星象總記，恒星圖，星表，星天十二宮方位及び名稱，星天十二宮獸帶對比表，附載獸帶譯名表，東西十二宮，二十八宿對比圖，附言東西天文一，支那，二，日本，三印度，四，西洋，世界文運，天文と文明の發揮，附載，日月遊星等の諸顯像發見引力及び光線分折法の發明等に關する諸家事蹟概要，歲差，推恒星用數，附錄，天文彙考第一編，列宿と獸帶，第二編，印度，第三編，支那，第四編，日本，第五編，西洋，附錄，金石四禽圖譜．

（23）天體美觀．文學方面から見た天體の美觀を集めたもの，月に關するものは「古今の月」と題し近々出版さるゝ筈．

（24），（25）．宇宙の見方と地球の見方とは姉妹編．現代常識大系の第一，二篇編輯代表者は文學士淺野利三郎，大久保昶彥兩氏である．

（26）星座巡禮は昨年「天界」紙上に紹介されたもの．

（27）人類及び地球の運命，石井理學士が新聞や，雜誌に投稿されたものを集めたものである．

（28），（29），（30），何れも坊ちやんや孃ちやん方の御樂みになる平易な天文書である．

注意——以前の本邦天文書總覽としては下の文を見られよ（編者）

「天界」第1號及第2號，（古川龍城氏）——大正九年まで

「天界」第58號及第58號（水野千里氏）——大正十四年まで

天界七月號

豫告

山本一清　ニウトン傳(5)

竹田新一郎　彗星の物理的性質(5)

中村要　反射望遠鏡の智識

淺野俊雄　ハーシエルの望遠鏡につき